

地域とともに積み重ねてきた 80 年の歴史 現状を打破し業界の新しい未来へと歩みだす

東金エリアの通運会社として産声を上げ、時代の変化とともにトラック運送事業から総合物流サービス事業へと業容を変化してきた南総通運(株) (今井利彦代表取締役社長)。地域を代表する物流企業として成長を続け、来年には設立 80 周年を迎える。

今井社長は「物流事業を通じて社会生活を豊かにする」ことを主眼に置きながら、様々な取り組みを果敢に推進。同社グループのさらなる発展と地域経済の飛躍に向けて、日々業務にあたっている。



ロゴマークが燦然と輝く同社のトラックの前に立つ今井社長

■「地域の皆様のおかげで現在がある」 地域に根差した貢献活動を継続展開

南総通運(株)は、昭和 17 年に設立された。当時、房総東線(現・JR 外房線)や東金線など 11 駅にあった通運会社が合併し、南総通運が成立。その後、高度経済成長期を迎え、通運事業からトラック運送事業に主軸を置くようになり、平成以降は運送をはじめ倉庫や流通加工など、総合的な物流サービスを提供している。

ちなみに、今井社長の実家は昭和初期より運送業を営み、その後の合併の後、父親も、南総通運に勤務していた。幼少期には、今井社長の自宅の目の前に同社の本社があったため、今井社長は古くから通運会社の仕事に親しんできたという。昭和 57 年に今井社長は日本通運(株)に入社。運送業界での経験を積み重ねた上で、平成 17 年に同社に入社。常務執行役員、副社長などを経て、平成 29 年 6 月に同社の社長に就任している。

同社では、「物流事業を通じ、社会に対してどのように貢献できるか」に主眼を置き、事業運営にあたっている。昭和 17 年の設立以来、地域とともに発展をつづけ、同社は来年設立 80 周年を迎える。「地域の皆様のご理解があったからこそ、現在の当社がある」との思いから、同社ではこれまで様々な地域貢献活動を展開してきた。

そのうちのひとつとして、設立 70 周年、75 周年、77 周年など、同社にとって節目となる年に、同社の営業所のある千葉県内の 7 自治体に寄付金を贈呈。交通事故の被害に遭いやすい高齢者や子どもの交通安全対策に活用していただいている。

また、本社のある東金駅前でのボランティア清掃や、千葉県トラック協会山武支部青年部会主催の道路清掃への参加など、地域に根差した様々な活動も行っている。

「地域貢献への取り組みは、継続することが何よりも大事だと考えています。来年の設立 80 周年に向けて、当社としてさらに何ができる

かを考えているところです」(今井社長)

また、安全への取り組みでは、「トップから従業員に至るまで、安全の大切さを浸透させることが最も重要」と考え、支店長・事業所長とドライバーの皆さんとの個人面談に力を入れている。個人面談では、安全についてはもちろんのこと、健康問題や家族のこと、また給与や賞与といった待遇面など、様々な話題について腹を割って話し合う。今井社長と支店長・事業所長とドライバーの皆さんが価値観を共有することで、信頼感の向上に繋がっている。



今井 利彦 代表取締役社長

「当社では年 1 回の集合教育など様々な安全対策を実施していますが、その効果を高めていくためには、全ての従業員が同じ目標に向かい、高いレベルで切磋琢磨していくことが何よりも大切です。個人面談を通じて信頼関係を築いていくことで、一つのチームとして同じ目標の実現に取り組むことができるようになります。経営者としては、従業員と胸襟を開いて話し合えるような職場の雰囲気をつくり上げていくかが大事なのではないでしょうか」(同)

さて、同社では 2 年前に 65 歳定年制を導入し、従業員が長く働くことのできる環境づくりにも取り組んでいる。その柱は、従業員の健康管理の強化にある。

同社では 10 年ほど前から、支店長・事業所長と統括安全管理者が、従業員の定期健康診断の結果を把握するようにしている。糖尿病や高血圧などといった従業員の持病を把握し、支店長・事業所長や統括安全管理者が面談などを通じ、持病を抱える従業員に対して継続的にフォローを行うことで、適切な治療の実施に繋がっている。



社長との個人面談では様々な話題について話し合い、価値観の共有に繋がっている



本社の従業員たちと談笑している今井社長



東金市内では5か所で倉庫を運営し、物流拠点としても活用している

また、5年ほど前からは、35歳以上の従業員に対して5年ごとに人間ドックの受診を推奨。受診料の一部(1万円)を会社が補助するなど、受診しやすい環境の整備も進めている。

さらに、30年以上前から同社で発行している社報(年4回発行)の中でも、健康管理の重要性について取り上げている。

「社報は、従業員に自宅まで持ち帰ってもらい、ご家族の皆様にも当社の取り組みを知っていただきたいとの思いから制作し続けてきました。当社では大手コンビニエンスストア店舗への配送も手がけており、ドライバーの中には早朝2時頃に出社する人もいます。従業員のご家族の理解と協力なくして、物流を守ることができません。昨年からのコロナ禍においても、自分たちを支えてくれている家族がいたからこそ、従業員たちは難局の中でも『エッセンシャルワーカー』として立ち向かうことができたのではないのでしょうか。当社では、こうした従業員の献身的な活躍に応えるために、コロナ禍に対する社会貢献手当の支給を行いました。今後も『従業員の後ろには家族がいる』ことを意識しながら、いかなる状況においても物流を守っていくための取り組みを進めていきたいと考えています」(同)

また、従業員の労働環境改善への取り組みも進めている。令和6年4月から、自動車運転業務に対して時間外労働の上限規制(年間960時間)が適用されるのに先んじて、同社では今年4月から適用された36協定において、ドライバーの時間外労働の上限を年間960時間に設定。また、休日数や給与など、ドライバーの待遇面での改善にも着手し始めたという。なお、同社では、人材確保の取り組みの一環として、『働きやすい職場認証制度』認証事業者として、一つ星認証を取得している。

「業界内で人手不足が深刻化している中であって、長時間労働が当た

り前という就労の形をどう変えていけるかが、人材獲得の大きなカギになってくると考えています。まずは当社としてできることについて、運行管理者や営業担当者なども巻き込みながら、チャレンジしていきたいと考えています」(同)

「物流を通じて社会生活を豊かにする」を旗印に、長年にわたって業務を展開し、地域を代表する物流企業として成長してきた同社。今後に向けての課題を今井社長に何うと、「安定志向からの脱却」という答えが返ってきた。

「当社は平成以降、物流・倉庫を核としたトータル・ロジスティクス・サービスの提供に舵を切り、皆様方のおかげでここまで順調にすることができました。当社の従業員の多くは平成元年以降に入社しており、これまでは比較的安定した状況の中で業務にあたってきました。一方で、県内にも深刻な被害を与えた令和元年房総半島台風(台風第15号)や、昨年から続いているコロナ禍など、近年は物流が維持できなくなるような危機的な状況にも直面しています。『安定志向の中で物事を考えること』が当たり前になると、こうした想定外のリスクに立ち向かうことができなくなります。私は、当社をさらに成長させていくためには、『現状を打破する精神』が必要ではないかと考えています。安定志向から脱却して自己変革に挑戦し、変化を創り出していければ、当社の未来はないと思います。これまでのやり方をゼロベースで見直すとともに、目の前にあるリスクや将来的なリスクの排除に手を緩めないこと。これが、変革著しい物流業界の中で当社が生き残っていくための唯一の道ではないかと考えています。当社の次世代を担う方々には、既成概念を払拭し、現状を否定し、現状打破の精神をもって、今までの自分自身の考え方と行動を見直し、そして変革に繋げていくことを期待したいと思います」(同)

ホットにゆーす

■「無心で走ると集中力が高まる」 アイデア創出に繋がるランニング

今井社長の趣味はランニングである。

もともと走るのが好きだった今井社長は、「年間走行距離1,000km」を目標に、時間ができれば走るようにしているという。30代のころからは青梅マラソンに出場している(11回出場)ほか、東京マラソンにも出場したこともある。

今井社長にランニングの魅力について何うと、「無心で走っているといういろいろな物事を集中して考えることができ、新しいアイデアも出てくるのです」という答えが返ってきた。



ランニングウェア姿の今井社長。年間走行距離1,000kmを目標に、日々走っている

企業プロフィール
南総通運株式会社
代表取締役社長 今井 利彦
本社 千葉県東金市東金 582
従業員 1,108人(ドライバー345人)
※臨時・パート社員含む
台数 364台